

第5回安曇野市環境審議会 会議概要

- | | | |
|---|-----------|---|
| 1 | 会議名 | 第5回安曇野市環境審議会 |
| 2 | 日時 | 令和6年3月15日(金) 午後1時30分から午後3時45分まで |
| 3 | 会場 | 安曇野市役所 大会議室 |
| 4 | 出席者 | 環境審議会 植松晃岳 会長、樋口嘉一 副会長、横田耕太郎 委員、
中林嘉世子 委員、山崎淳 委員、畑中健一郎 委員、
渡辺正幸 委員、今井隆一 委員、堀井勇司 委員、降旗幸子 委員、
原弥生 委員、平林昭敏 委員、磯野康子 委員 |
| 5 | 市側出席者 | 市民生活部 沖部長、
環境政策担当 百瀬補佐、丸山補佐、土屋主査、古屋主事 |
| 6 | 公開・非公開の別 | 公開 |
| 7 | 傍聴人 | 0名 |
| 8 | 会議概要作成年月日 | 令和6年3月21日 |

協 議 事 項 等

(進行表)

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 報告事項
 - (1) 市の組織改編について
 - (2) 環境基本計画 令和6年度 実施計画について
 - (3) 令和5年度環境課の事業報告について
4. 協議事項
 - (1) 環境基本計画 令和5年度 年次報告(中間)について
5. その他
6. 閉会

【議事】

報告事項(1) 市の組織改編について

<環境課から説明>

<質疑・意見>

(委員) 新しい課について、何人体制になるのか。また、どのような業務を予定しているのか。

(環境課) 組織体制は5人を要望している。何人体制になるかは確定ではないが、来週以降人事異動の発表がある。国の補助金を活用した太陽光発電事業や県の企業局と連携した小水力発電事業を進めていく。公共施設へのPPA事業に加えて、民間施設への投げかけや民間団体との連携も図っていききたい。松本平ゼロカーボン・コンソーシアムに参加しているなかで、新電力についても協力していききたい。J-クレジット制度の活用やEVと充電スタンドの普及、ZEBやZEH、公共施設のLED化等、担当部署と連携しながら行っていききたい。今まで行ってこれていなかった事業に対しても手を付けていききたい。

報告事項（2）環境基本計画 令和6年度 実施計画について

<環境課から説明>

<質疑・意見>

特になし

報告事項（3）令和5年度環境課の事業報告について

<環境課から説明>

<質疑・意見>

特になし

協議事項（1）環境基本計画 令和5年度 年次報告（中間）について

<環境課から説明>

《各ワーキンググループでの審議》

<評価・意見>

【グループA】

(No. 1)

- ・調査結果の周知方法のマニュアルを構築していただきたい。
- ・希少種の市民への情報共有について、何らかの方法を考えてほしい。

(No. 2)

- ・次年度からはリポーターの登録者を増やしてほしい。
- ・広報や情報提供の在り方を再検討してほしい。マンネリ化もあるため、やり方も再検討してもらいたい。

(No. 15)

- ・看板をつけていることなどはやったことなので、積極的に書けばよい。
- ・原木の確保方法も検討してほしい。

(No. 16)

- ・参加人数にこだわらず内容の充実を求めていただきたい。

(No. 17)

- ・このままでよい。

(No. 18)

- ・継続して実施してほしい。また、希少動植物に配慮してほしい。
- ・安全面も考慮してほしい。

- ・費用対効果は書いてないが、書いてほしい。検証の結果がどうだったか記してほしい。

(No. 22)

- ・60%の理由が書かれていない。個体数調整だけが対策ではない。捕獲以外の対策もやっているとあるので記載してほしい。
- ・サル追い払い隊は全国的にも注目を浴びている。始まったばかりなので結果が見えてきていないが、続けていただき結果が見えるようにしてほしい。
- ・捕獲だけでなく他の対策も含めて積極的に取り組んでほしい。

(No. 26)

- ・他団体に協力してもらえるよう積極的に働きかけていただきたい。
- ・工業団地を新しく作る時は浸透施設を作っている。工業系も積極的に涵養しているという文言を入れてほしい。

(No. 27)

- ・節水効果、費用対効果をPRに使うことで効果があるか分からないが、市内資機材店舗以外に、工務店やメーカーなどPRする場所はないか。実際設置した人がどこで知っているのかが重要である。
- ・今年度もやりたい人がもっといたかもしれない。設置した人がどうだったかも知りたい。

【グループB】

(No. 3)

- ・丁寧、迅速に対応を継続してもらいたい。堆肥センター閉鎖後の個別対応も重要だと思う。

(No. 13)

- ・高校でも環境教育の授業を行っているので、重点取り組みのタイトルの変更を検討してもいいのではないかな。

(No. 14)

- ・区などに積極的に出前講座の開催を宣伝してもいいのではないかな。
- ・新設されるゼロカーボン推進課など、他部署との調整も必要だと思う。

(No. 19)

- ・数値目標に対する達成状況は悪くないが、オペレーターが不足しているなどの現状もある。農地の維持が課題であるので、農協などとも協力しながら、組織再編の見直しも必要になってくると思う。

(No. 20)

- ・特に山沿いの周辺が深刻な状況にあると思う。状況により棲み分けも必要になってくると思う。農地を林に戻すというようなことも考えてもいいと思う。

(No. 21)

- ・エコファーマー制度を重点取り組みにすることは、根本的に見直しをしたほうが良いと思う。
- ・有機や無農薬といった視点での内容を重点取り組みとしたほうが良いと思う。

(No. 23)

- ・農家だけでなく地域の人にも協力していただき事業を継続してほしい。

(No. 24)

- ・効果を検証しながら事業を継続してほしい。

(No. 25)

- ・住民協定の関わりなど、大きな成果も見られる。今後も効果を検証しながら事業を継続してほしい。

(No. 28)

- ・住宅新築の建設費が高騰しているため、空き家に対する需要もあると思う。事業の掘り起こしや、マッチングを頑張ってもらいたい。
- ・相続登記が義務化されるので、今後さらに取組みを進めてほしい。

【グループC】

(No. 4)

- ・引き続き、啓発・周知のポイントについて確認を続けていただきたい。事業所については生ごみ処理の状況と補助金の有効性を確認してほしい。
- ・食品ロスについて、松本市は30・10運動を行っている。安曇野市でもスローガンを掲げて啓発してほしい。
- ・言葉での周知・啓発意外の具体的な活動として、家庭のごみ箱に貼る分別シールを作って配布してほしい。可燃ごみやプラスチック等、ごみの量が多いものに絞ってシールをつくることを検討していただきたい。
- ・広報活動の事例のなかに加えて行ってほしい。事業者に対しては、事業所での実態を把握して進めて行ってほしい。

(No. 5)

- ・事業系ごみの減量のポイントについて今後の活動に生かして行ってほしい。収集運搬許可業者等との会議については、6月に問題点と課題を共有し解決に向けた取り組みを行い、3月に取り組み結果をまとめて次年度に繋げるようにしてほしい。資源化を指導した結果どうなったのかを明らかにするのが目的であり、会議の開催自体が目的にならないようにしていただきたい。
- ・事業者への周知・啓発を増やしてほしい。

(No. 6)

- ・引き続きごみの減量化に向けた行動変容を確認しその対応を進めていただきたい。
- ・よく間違える分別方法を中心に周知してほしい。

- ・今は、硬質プラスチックを燃えるゴミ袋に入れている。硬質プラスチックを年に2回程収集する日を設けてほしい。

(No. 7)

- ・引き続き安曇野市地球温暖化防止実行計画に基づいた、省エネルギー化の実績確認・分析とその対応を進めていただきたい。
- ・PDCAシートに、ゼロカーボンに向けての本質的な内容が書かれていない。省エネルギー化に向けてというよりは、ゼロカーボンに向けての表現にしてほしい。全体の計画との関係性を分かりやすくしてほしい。

(No. 8)

- ・地域脱炭素移行・再エネ推進交付金の活用による「見える化」を進めてほしい。環境家計簿については、こどもから家庭の気づきにつながるものにしてほしい。
- ・環境フェアについて、もう少し突っ込んだことができるといい。
- ・環境フェアや環境家計簿から、次第にゼロカーボンに向けた見える化をしていただきたい。

(No. 9)

- ・取り組みで得られた要素の活用を進めていってもらいたい。水平展開を進めていただきたい。

(No. 10)

- ・緑のカーテンの定着を確認しさらなる計画を進めてほしい。
- ・市民には緑のカーテンは定着してきている。市有施設にも緑のカーテンを設置しているものの、うまく育ておらず寂しい見た目である。意欲をもって育ててほしい。

(No. 11)

- ・取り組みの潜在需要を確認し、さらなる計画に向けていっていただきたい。

(No. 12)

- ・取り組みの状況を分析し、可能なところから行動変容に向けた普及啓発を進めていただきたい。
- ・普及啓発をしても、実際に行動に移すのが難しい。
- ・車の削減をしてもらうことを初めの目標にするのではなく、まずは省エネタイプの車に乗り換えていってもらうことを目標にして、その後その車自体を減らしていくといった段階的な取り組みが必要に感じる。

(No. 29)

- ・引き続きデマンド交通の市民の利便性と地域公共交通の社会動向及び経済性への検証を行い、取り組みへの反映を進めていただきたい。実態調査を活用して充実させてほしい。